

原発

0へ

ゼロ



—安心して住み続けられる北海道を—
とめよう、なくそう、原発！ 11.23道民集会

11月23日(水) 11:00～ 札幌市・大通西8丁目

主催：「軍事費削って、くらしと福祉・教育の充実を」国民大運動北海道実行委員会

安心して、 住み続けられる北海道を。

「着のみ、着のまままで避難してきた。いつになれば、元の生活に戻れるのか」「このままでは、農業も漁業も観光業も、みんな壊滅してしまう」。

福島第一原発で起きた最悪の事故は、いまだ収束のメドすらたちません。

原発技術は、未完成です。原発がはき出す放射性廃棄物の処理方法すら確立できていません。ひとたび放射能が放出されたら、人間の力で押さえることはできないばかりか、そもそも、放射性物質の放出や地震・津波の実験ができないもとで、安全を実証することは原理的に不可能です。

北海道には、泊原発があります。函館市の23kmには、青森・大間原発が建設中です。いずれも、海岸沿いで、周囲には多くの活断層の存在が指摘されています。過酷事故では、都市部の札幌や函館への影響も避けられません。ウランよりも危険な新燃料モックスを使うプルサーマル計画は、もつてのほかです。道北の幌延町での核廃棄物深地層研究は、そのまま処理場とされる危険性を常にはらんでいます。「安全だ」と言えるものは、ひとつもありません。

国、知事、北電は一体となって、「冬の電力需要」を喧伝し、原発を「稼働」させようと躍起になっています。泊3号機やプルサーマル計画をめぐる「やらせ」問題が相次いで発覚し、「住民合意」の正当性は根本から崩れています。政府の原子力委員会が行った原子力政策についての意見募集では、「原子力発電を廃止すべきだ」とする意見は98%にのぼります。福島第一原発事故は、「原発は核兵器と表裏一体」であることを突きつけています。

知事に求められるのは、原発からの撤退を決断し、「原発ゼロ」に向けたプログラムをつくるよう国に求め、道自身も策定することです。豊かな自然をもつ北海道だからこそ、風力、天然ガス、石油、石炭、省エネなどを多様に組み合わせ、自然エネルギーの開発に本気で取り組めば、原発依存からの脱却は可能です。ドイツ、イタリア、スイスは原発からの撤退を決めました。道民の安全・安心、くらし、産業、地域を守り、未来を担う子どもたちのために、安心して住み続けられる「原発のない北海道と日本」を実現しましょう。集会へのご参加を呼びかけます。

国、知事、北電は一体となって、「冬の電力需要」を喧伝し、原発を「稼働」させようと躍起になっています。泊3号機やプルサーマル計画をめぐる「やらせ」問題が相次いで発覚し、「住民合意」の正当性は根本から崩れています。政府の原子力委員会が行った原子力政策についての意見募集では、「原子力発電を廃止すべきだ」とする意見は98%にのぼります。福島第一原発事故は、「原発は核兵器と表裏一体」であることを突きつけています。

とめよう、なくそう、原発！ 11.23道民集会

11月23日(水) 札幌市・大通西8丁目
集会 11:00~11:40 デモ 11:40~12:30

主催：「軍事費削って、くらしと福祉・教育の充実を」国民大運動北海道実行委員会
〒003-0803 札幌市白石区菊水3条3丁目2-17(道労連内) Tel:011-815-8181 Fax:011-815-4545